

# あだたら

第435号  
発行所  
郡山市喜久田町  
あだたら山の会  
編集部

二月十六日(日)

二月山行・冬山バ下回りル

報告 □□□□



二月十六日の冬山パトロールは会員六名、□□さん夫婦で合計八名。当日はそこまで寒くもなく少し暖かい印象だったが風が強く、勢至平周辺で八mぐらい、それなりに多くの登山者が登っていたが引き返して行く

こんなに晴れて、穏やかで、阿武隈山地も綺麗に見えて、うらやましい！

関係者には共有をしておきますが皆様にご周知ください。

る登山者も多く、みな峰の辻手前あたりでガスが濃く、強風で引き返してきた。くろがね小屋く峰の辻までは篠竹が無くルートが分からない模様、合わせて八の字頭から少し登ったあたりで夏道と踏み跡が分かれており百mぐらいで合流するが今年には雪が多く、夏道と違うルートに踏み跡が出来ている。分かって歩いている方は問題ないがそうでない方は危険かも？、インバウンドの影響か外国の方もいましたが帽子、手袋、ザック無しで靴もスニーカーであり、副会長が話しかけたらカナダから来たど、風が強く危険だから途中で引き返してきて下山すると勢至平ですれ違ったが、何ともな気持ちでした。後は夏に設置した(くろがね小屋下の)仮設トイレですが雪に完全に埋まっており屋根から三十センチぐらいの積雪で隠れていました。テープなどで立入規制して来ましたがアイゼン履いてるような人が知らずに上に乗ったら天井が損傷するかのまま落ちる可能性があります。

●編集連絡先  
二本松市郡内一五十五  
0243(22)4245  
FAX可・渡辺 正



登りも、雪道で風が無いと楽



まずはスノーシューの履き方指導



勢至平、上天気



トイレ掘り出し、屋根、確認出来た



春山の醍醐味、雪道の下り



小屋下の「携帯トイレブース」、赤テープで立入禁止したが、要注意



二月二十四日(月) 磐梯山・イエローフォール

報告 □□□□□



裏磐梯スキー場レストハウスにて

裏磐梯ビジターセンターに八時集合。乗り合わせて裏磐梯スキー場へ。八時四十三分、リフトを二基乗り継ぎ終点到着。私は初めてのスノーシューのため履き方を教わり何とか装着できた。ふかふかの雪にもあまり沈まず一人カンゲキする。童心にかえり新雪を踏んで歩くのも楽しい。進んで行くと視界が開け広い雪原に出た、銅沼の端まで来

たねと教えてもらった。雪がある時期ならではの銅沼の上を歩きながら地図の四方、地形、方向など教えてもらおうも私はデキが悪くなかなかついていけないのが残念。銅沼を過ぎて少し上るとイエローフォールが見えた。人が結構いて楽しそうに記念撮影をしている。私たちも近づき写真を撮った。記念撮影も終わったところで移動して雪を踏み回

めスペースを作って昼食。□□さんから思いがけず珍味の差し入れがあり、賞味させていただきました。食後に低体温症に関する対処法を教えていただき下山開始。裏磐梯スキー場上部到着、ここからはスキーヤーさん達に接触しないようにグレンデの端を下り十三時二十分、駐車場到着。裏磐梯ビジターセンターに戻り解散。磐梯山山頂は見えなかったけどお天気に恵まれ広くふかふかの雪原を歩き、動物の足あとに癒され、彩雲も見られ、イエローフォールに感激してとても充実した山行でした。イエローフォールの黄色は鉄分等が含まれているのだと初めて知りました。みなさまと同行させていただき、冬山が心配だった私もイエローフォールを見て来られました。ありがとうございます。



イエローフォールが見えた



イエローフォールに到着



歩いたルート 銅沼は上を渡った



休憩中

福島市遭難対策委員会、低体温症研修について今回、参加させて頂き非常に勉強になりました。特に搬送は一つの手段であり、リスクがある事。場合によってはその場で回復するまで待機する必要がある事など。今までは要救助者に接触したら一秒でも早く搬送して下山させるのが一番だと思っていたが低体温症の場合等は搬送する事のリスクがあり、そのリスクマネジメントをどうするのか？、いざ起きてから考えるのではなく、起きる前に予測して方針を決めておく重要

二月八日(土) 令和六年度第二部冬山合同救助訓練 会場、アオウゼ 主催・福島市山岳遭難対策協議会、 報告 □□□□□

性。また、患者の評価は初期から時間経過で体調変化でどんな変わっていくの定期的は評価が必要。その評価も感覚ではなく事実に基づいた小さな評価を集めて分類を分けていく今後の救助ではビバークする想定での装備見直しも必要。あとは関係機関との知識、技術、方針の共有をしっかりとっておかないと今まで以上に連携が取れなくなっていく可能性がある。これを機に安達太良モデルでの救助理論を構築できれば一番良いと思う。



一月二十五日 (土)

### 個人山行・女神山

報告 □□□□



1月25日、堀切登山口



1月25日、女神山

今年、個人山行は初めてである。九時に妻をデーサービスタに送り出し、ご飯とカップメン、お湯をザックに入れ女神山秋山集会所へ。集会所前の駐車場に車を止め十時三十分出発する。堀切登山口下で入山届けを出し入山する。風なく晴れ、登山道の落ち葉だけの音である。七ツ森林道手前の休憩場で休む。堀切登山口上より、柗平堀切分岐まで、今までより長く遠く感じた。立ったまま休憩、直登をさげ柗平コースへ廻り登る事にした。立ったまま休憩。山頂手前で麓からのオルゴールが聞こえる。十二時である。今日の予定

は山頂十二時だったのだが遅れた。十二時十分山頂に着いた。山頂広場は乾燥していたが、北東の斜面には少し残雪があった。雪の安達太良が綺麗に見える、休憩をしていると冷たいソヨ風、安達太良を見ると稜線から勢至平まで雲が流れていた。冷たい空気になったのかな？

十二時五十分下山。途中一人の男性、下を見て登って来る。セキ払いをし相手に知らせる、少しの時間だが山談義、柗平へ下山。七ツ森林道からは車道歩き秋山集会所に二時過ぎに下山、途中面白い物をし三時三十分帰宅する。

一月二十八日 (火)

### 個人山行・医大発ウォーキング

報告 □□□□

一月二十八日には、息子事。急に思い出し、医大よりウォーキングと息子の車が医大に検査に行くとの

二月一日 (土)

### 個人山行・夏無沼トレッキング

報告 □□□□



2月1日、夏無沼、東屋



2月1日、白滝不動尊前



1月28日、医大発、芳水桜



1月28日、水原川・カモ

で医大へ。医大でトイレを済まし出発する。昨年も大より旧四号国道を歩いた事があるが、今回は松川駅を廻り水原川で白鳥を見て帰るコースにした。四号バイパスの歩道より、県道三〇七号に入り、途中ウズリノゴ五百円で買い求め、芳水の桜(シダレ一本桜)を

通り松川へ。北芝電気より水原川へ、白鳥・カモが今年が多い様だ。平日なので人は少ない。洪川小学校下より二本柳を通り、帰宅する。医大八時出発、十二時二十分帰宅、四時間二十分、約二千八百歩、十八キロのロングウォーキング。

会社やデーサービスで皆さんは外出、天気も良いので昼食をザックに入れ夏無沼トレッキング。県道六十二号を針道の白滝不動尊前に車を止める、口太山へ行ったのか、赤い車一台止まっていた。

十一時入山する。夏無沼への車道は雪、男性と思われるクツの跡、そして車止めのウマの脇に車の跡がある。今日入ったのだと思う。夏無沼の手前を左に入ると車も入った。今日は夏無沼駐車場の小屋のベンチで昼食を予定していたの見晴らし台の方へ入り駐車場方面の山道、ここも車が入った。途中削木で行けずUターンした様だ。小屋のベンチは雪でだめ。沼のアズマ屋へと向かう。駐車場にも大き

くUターンした車の跡がある。アズマ屋の中のベンチで昼食、太陽は雲から出たり入ったり。今の温度0度、カップラーメンで手を温める。二十分の休憩、夏無沼キャンプ場広場を一周する。車も入りUターンしている。私の予定していたコースの道案内をしていた様だ。夏無沼の最高と思われる山へも遊歩道があったの初めて知り登る事に。山頂と思われる所は赤松林である。雪が十五センチ有り、良くわからない、下りはバラや倒木など有る、猪の足跡などある車道へもどる。下山は車の跡に導かれ戸沢方面へ。県道六十二号を白滝不動尊へ、約三時間、一万五千歩のトレッキングを楽しむ。

### 大正十四年の安達太良登山 百余名を引率して安達太郎に登る

報告



7月22日 夕刊

一九二五(大正十四)年七月五日、安達町油井学校の高等科一・二年生が安達太良登山をした。当時の福島民友新聞に記事掲載されている。県立図書館のマイク

安達油井校 亘生さん た。とても貴重と思われるのでまず、経過だけ。

五時五十分 油井学校発  
八時十分 二時間十分歩いて、塩沢湯川不動尊(不動滝) 二十分休憩  
朝食  
九時十五分 八丁林入口  
九時四十分 大童窪(どこなのか不明)、二十分休憩  
十時四十分、金明水着  
十一時三十分、馬の背着

### 編集後記 四三五号

◆今三月だから、一応春だ。四五日前はとても暖かく、早咲の梅も開花した、今回の冬は暖かった、昨日と一昨日とても寒い、春になっての大雪だ。この変な季節の移り変わり、将来季節は夏と冬だけになると言う話があったが、今度の夏もこうなるのかと思うと、とても不安だ。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。

三十分休憩昼食  
十二時三十分、乳首、四十分休憩  
十三時十分、下山開始  
十四時四十五分、鳥川着  
二十分休憩  
十五時五分、鳥川発  
十六時、岳温泉着、一時間休憩、入浴(夕食は取らなかったのうか不明)  
十七時岳温泉発  
十九時帰宅

◆休憩を含んで十三時間十分(うち休憩三時間十分)乗り物使った記載は無い、総て歩きだ。昔はみんなこうだった、の、だろうけどたいしたものだ。

亘生さんの報告の他に、児童六人の報告も掲載されており、とても楽しい。